

## 第4章 創造的な未来を切り拓く子ども・若者の育成

### 第1節 創造的な未来を切り拓く子ども・若者の育成

#### 1 グローバル社会で活躍する人財の育成

##### (1) 国際理解教育の推進

高校生がグローバルに活躍するための英語活用機会の増加を目指し、幅広い教養や主体的に課題を発見し解決する国際的素養を身に付けた人材を育成する。具体的には、協定締結した台湾の高校との教育交流や韓国済州特別自治道において開催される済州国際青少年フォーラムへ高校生の派遣が行われる。

##### (2) 国際交流

###### ア 内閣府青年国際交流事業

この事業は、日本や各国を代表する青年が、共に国際的課題についてのディスカッション等の活動を行うことを通じ、国際的視野を広げ、国際協調の精神と実践力を向上させ、リーダーの育成を目指すことを目的に内閣府が毎年度実施しているもので、以下に述べる5つの事業で構成されている。

###### (ア) 国際社会青年育成事業

昭和、平成の皇太子殿下の御成婚記念事業を、2019年のお代替わりを契機にして発展させた事業であり、2か国に日本青年を派遣している。訪問国では、地元青年との社会課題に関するディスカッション、施設訪問及びホームステイを行う。また、帰国後は派遣先から招へいた外国青年と国際青年交流会議に参加する。

###### (イ) 日本・中国青年親善交流事業

1978年の日中平和友好条約が締結されたことを記念し、1979年から開始された事業で、日本・中国両政府が共同で実施している。文化紹介やホームステイを通じた交流とともに、ビジネス環境・就職・ボランティアの状況などについて、両国の共通点や相違点などを掘り下げて考える機会ともなる大学生との意見交換、グローバルに飛躍をとげる中国の先進企業訪問、起業をめぐるビジネス制度等に関連する施設の訪問等を行う。

###### (ウ) 日本・韓国青年親善交流事業

1984年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨を踏まえ、1987年から開始された事業で、日本・韓国両政府が共同で実施している。文化紹介やホームステイを通じた交流、地球環境、文化、教育、社会福祉等の各種施設、先進企業の訪問やディスカッション等を行う。これらを通じて、日韓関係の将来に向けたありようについて踏み込んで考え、どのような領域で青年たちが東アジア地域の発展に貢献できるか考える。また、日本に招へいた韓国青年との合宿文化交流会等を行う。

###### (エ) 「東南アジア青年の船」事業

1974年に開始したわが国とASEAN諸国との共同事業で、ASEAN10か国の青年と船内等で共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流を行っている。東南アジア各国から選び抜かれた青年とのネットワークを構築するとともに、アジア地域の未来を担う人材の育成を図る。

###### (オ) 「世界青年の船」事業

1967年度開始の「明治百年事業」にルーツがある事業で、毎年異なる世界10か国から集まった外国青年と船内等で共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流を行っている。プロジェクトマネジメントや異文化対応を、理論・実践の両面で強化することに重点をおいた事業を行う。

###### (カ) 地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」

高齢者、障害者、青少年の3分野に特化した社会活動経験者向けの事業である。各国で同じ分野で働く同世代の若者との交流や政府機関・関連団体及び施設の訪問や意見交換等を通じて、人

のネットワークを形成し、社会課題解決能力を高める活動を行う。

第2-4-1表 青森県からの内閣府青年国際交流事業派遣状況

(単位：人)

事業名	年度	平成30年度 までの累計	令和元	2	3	4	合計
青年海外派遣 国際社会青年育成 日本・中国青年親善交流 日本・韓国青年親善交流		71	2	中止	中止	0	73
東南アジア青年の船		9	0	中止	中止	0	9
世界青年の船		22	0	中止	中止	0	22
次世代グローバルリーダー		1				0	1
地域課題対応人材育成		0	0	中止	中止	0	0
計		103	2		中止	0	105

資料：青少年・男女共同参画課

#### イ 青年農業者の海外研修

公益社団法人国際農業者交流協会が行う、主に20代の農業青年を対象としたアメリカ、ヨーロッパ等での長期研修プログラムへの参加推薦により、青年農業者の農業技術や経営管理能力の向上、国際的視野の拡大を図っている。

第2-4-2表 青森県からの青年農業者海外研修推薦状況

(単位：人)

区分	年度	平成27	28	29	30	令和元	2	3~5
アメリカ		1	—	—	—	—	1	—
オランダ		—	—	—	1	—	—	—
計		1	—	—	1	—	1	—

資料：構造政策課

### (3) 外国青年受入状況

#### ア 外国青年招致事業

県内における外国語教育の充実を図るとともに、地域レベルでの国際交流の発展を図るため、総務省、文部科学省、外務省及び一般財団法人自治体国際化協会の協力の下に「語学指導等を行う外国青年招致事業」を実施しており、本県の令和5年度の受入状況は次のとおりである。

(ア) 日本人教師の外国語授業の助手として職務に従事する「外国語指導助手（ALT）」153人を招致又は再任用し、主に教育委員会または私立学校に配置した。(第2-4-3・4表)

(イ) 外国からの訪問客の接遇、外国語刊行物の翻訳・監修、イベント等の通訳などの職務に従事する「国際交流員（CIR）」14人をアメリカ、イギリス、オーストラリア、ドイツ、韓国及び中国の各国から招致又は再任用し、県及び市町村に配置した。(第2-4-3・4表)

なお、昭和62年度からの招致人員は延べ3,533人である。(第2-4-4表)

第2-4-3表 語学指導等を行う外国青年招致人員内訳(令和5年9月1日現在)

(単位:人)

国名	外国語指導 助手 (ALT)	国際交流員 (CIR)	計
アメリカ合衆国	128	6	134
イギリス	7	2	9
オーストラリア	1	1	2
カナダ	7		7
ドイツ		1	1
中華人民共和国		2	2
大韓民国		2	2
セルビア	1		1
フィリピン	4		4
南アフリカ共和国	1		1
モリシヤス	1		1
イラン	1		1
トリニダード・トバゴ	2		2
計	153	14	167

資料:誘客交流課

第2-4-4表 語学指導等を行う外国青年招致事業外国青年招致数（令和5年9月1日現在）

（単位：人）

団体名	令和5年度			令和4年度			昭和62年度～令和3年度				
	CIR	ALT	計	CIR	ALT	計	CIR	専任PA	ALT	SEA※	計
青森県	4		4	4		4	134				134
教育庁		28	28		29	29		2	971	5	978
小計	4	28	32	4	29	33	134	2	971	5	1,112
青森市	2	17	19	2	17	19	72		235		307
弘前市	1	17	18	1	18	19	9		182		191
八戸市	1	20	21	1	18	19	24		244		268
黒石市	1	4	5	1	4	5	3		67		70
五所川原市		4	4		4	4			80		80
十和田市		8	8		8	8	2		102		104
三沢市		5	5		4	4			36		36
むつ市	1	5	6	1	5	6	17		106		123
つがる市	1	4	5	1	4	5	34		96		130
平川市		2	2		2	2			59		59
平内町		1	1		2	2			36		36
今別町		1	1		1	1	4		25		29
蓬田村		1	1		1	1			20		20
外ヶ浜町		2	2		2	2			36		36
鱒ヶ沢町		1	1		1	1	13		33		46
深浦町		2	2		2	2	5		33		38
西目屋村											
藤崎町					1	1			30		30
大鰐町		1	1		1	1			27		27
田舎館村		1	1		1	1	6		6		12
板柳町		1	1		1	1	21		31		52
鶴田町	1	1	2	1	1	2	30		34		64
中泊町		2	2		2	2			61		61
野辺地町		2	2						7		7
七戸町		2	2		2	2	9		41		50
六戸町		3	3		3	3	16		15		31
横浜町		2	2		2	2			16		16
東北町		1	1		2	2			25		25
おいらせ町		3	3		3	3			22		22
六ヶ所村	2		2	2		2	38		24		62
大間町									14		14
東通村									5		5
風間浦村		1	1		1	1			20		20
佐井村		1	1		1	1			15		15
三戸町		1	1		1	1			41		41
五戸町		3	3		3	3			68		68
田子町		2	2		2	2			33		33
南部町									52		52
階上町		2	2		2	2			31		31
新郷村									6		6
中部上北広域事業組合		1	1		1	1			32		32
東部上北教育研究協議会									52		52
市町村計	10	124	134	10	123	133	303		2,098		2,401
私立学校		1	1		2	2			20		20
県計	14	153	167	14	154	168	437	2	3,089	5	3,533

（注）※はスポーツ国際交流員

資料：誘客交流課

#### (4) その他

##### ア JICA海外協力隊

JICA海外協力隊は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施しているボランティア事業の一つで、開発途上国の人々のために、自分の持っている技術や経験を生かしたいという強い意欲を持った青年を派遣する事業である。

本事業の昭和40年発足以来、本県からは、世界74ヶ国で470人の派遣実績がある。（令和5年10月1日現在）**（第2-4-5表）**

- (ア) 対象国：アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中東、欧州の約90か国
- (イ) 活動分野と職種：計画・行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉の9分野、約120職種
- (ウ) 派遣期間：原則として2年間
- (エ) 応募資格：満20歳から満69歳までの日本国籍を有する者
- (オ) 待遇：現地生活費、往復渡航費等は国際協力機構の負担

##### イ 日系社会青年ボランティア

日系社会青年ボランティアは、中南米の日系人社会の一層の発展を図るため、独立行政法人国際協力機構（JICA）が満20歳から満69歳までの青年をボランティアとして派遣する事業である。昭和60年発足以来、本県からは、世界3ヶ国で10人の派遣実績がある。（令和5年10月1日現在）

##### ウ 三沢基地内大学県民就学推進事業

三沢基地内大学県民就学推進事業は、青森県の発展に貢献する国際性に富む有為な人材を育成するため、県内に居ながら三沢米軍基地内にあるアメリカの大学等（メリーランド大学、トロイ大学院、エンブリーリドル航空大学）への就学を希望する県民を対象としており、これまでの就学者数の累計は、令和5年4月1日現在で581人となっている。

#### (5) 市町村の青少年国際交流状況

青少年の国際交流事業は、各市町村においても積極的に取り組む姿勢をもっており、継続的あるいは記念事業としての海外派遣事業や、相互交流を推進する海外青少年の受入事業を積極的に推進している。令和4年度の実施状況は**第2-4-6表**のとおりである。

第2-4-5表 本県出身 JICA 海外協力隊年度別派遣数（令和5年10月1日現在）

（単位：人）

派遣国	～H13年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	R2	R3	R4	R5	合計	
アジア地域	インドネシア共和国	6			1			1	1	1				1			1							12	
	マレーシア	17				1																	1	19	
	フィリピン共和国	19					1				1								1					23	
	タイ王国	5			1	1													1					8	
	カンボジア王国	3					1		1	1														6	
	ラオス人民民主共和国	3						1						1										5	
	東ティモール民主共和国										1					1			1					3	
	ベトナム社会主義共和国	1		1											1					1			1	5	
	中華人民共和国	4	1			1																	1	6	
	モンゴル国										2					1				1			1	5	
	ブータン王国		1																					2	
	バングラディシュ人民共和国	11			1	1		1						1		1								16	
	モルディブ共和国	2																						2	
	ネパール連邦民主共和国	9		1					1	2									1	1				15	
	パキスタン・イスラム共和国	1		1		1																		3	
	スリランカ民主社会主義共和国	7						1		1		1			1		1							12	
	キルギス共和国					1						1			1									3	
	ウズベキスタン共和国	1									2													3	
	小計	89	2	3	3	5	2	3	4	4	8	2	0	1	5	3	1	2	3	3	0	0	3	2	148
中近東地域	ヨルダン・ハシミテ王国									2				1				2	1			1		7	
	シリア・アラブ共和国	4					1		1															6	
	イエメン共和国				1	1																		2	
	エジプト・アラブ共和国							1									1							2	
	モロッコ王国	9										1												10	
	チュニジア共和国	2																						2	
	小計	15	0	0	0	1	1	1	1	1	2	0	1	0	1	0	1	0	2	1	0	0	1	0	29
アフリカ地域	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2																1						3	
	エチオピア連邦民主共和国	3						2							1	1								7	
	ガーナ共和国	9				1				1	1						2							14	
	ケニア共和国	20												1						1				22	
	リベリア共和国	2																						2	
	マラウイ共和国	14				1	1	2			1													19	
	南アフリカ共和国		1																					1	
	ウガンダ共和国							1	1	1									1					4	
	タンザニア連合共和国	14		1		1			2															18	
	ザンビア共和国	8					1		1															10	
	ジンバブエ共和国	4					1										1							6	
	ベナン共和国										1		1		1									3	
	ブルキナファソ	1	1			2	2		1	1	1						1	1						10	
	カメルーン共和国									1			1			1				1				4	
	コートジボワール共和国	1																						1	
	マダガスカル共和国		1								1													2	
	モザンビーク共和国					1													1					2	
	ニジェール共和国	3		1		1																		5	
	ルワンダ共和国						1						1	1	1								1	5	
ガボン共和国												1							1				2		
セネガル共和国	7	1	1	1	1			2	2	1								1					17		
ジブチ共和国													1											1	
小計	88	4	3	1	7	6	3	8	5	6	2	4	2	3	2	4	1	6	2	0	0	1	0	158	
中南米地域	コスタリカ共和国	4					1																	5	
	ドミニカ国									1														1	
	ドミニカ共和国	2					1				0		0	1			1							5	
	エルサルバドル共和国	2			1																			3	
	グアテマラ共和国	6				1	1																	8	
	ホンジュラス共和国	5		1								1												7	
	ジャマイカ	2	1													1			1					5	
	メキシコ合衆国	2	1																					3	
	パナマ共和国	3	1			1																		5	
	ボリビア他民族国	6			1				2	1								1		1				12	
	チリ共和国	1		1	1						1													1	5
	コロンビア共和国	1																						1	
	エクアドル共和国	2					1						1					1						5	
	パラグアイ共和国	8		1		1					1				2			1						14	
	ベネズエラ・ボリバル共和国												1											1	
	セントルシア																						2	2	
	ペルー共和国	3					1																	4	
	ブラジル連邦共和国																						1	1	
	小計	47	3	3	3	3	3	2	2	1	3	1	1	2	2	1	1	3	1	2	0	0	2	1	87
オセアニア地域	フィジー共和国	3									1													4	
	マーシャル諸島共和国								1															1	
	ミクロネシア連邦	1			1																			2	
	バブアニューギニア独立国	5			1			1	1															8	
	ソロモン諸島	6									1							1	1					9	
	トンガ王国	4								1	1		1											6	
	バヌアツ共和国	3			1					1														5	
	サモア独立国	8																						8	
	パラオ共和国	1						1																3	
小計	31	0	0	3	0	0	2	0	3	2	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	46	
欧州	ハンガリー		1																					1	
	ルーマニア		1																					1	
	小計	0	2																					2	
合計	270	11	9	10	16	12	11	15	14	21	6	7	5	11	6	7	7	13	8	0	0	7	4	470	

資料：独立行政法人国際協力機構

第2-4-6表 令和4年度各市町村における青少年国際交流の実施状況

市町村名	担当部署	事業名	実施時期(期間)	対象国(対象地域)	事業概要	実績数値
青森市	教育委員会事務局指導課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致17名
青森市	教育委員会事務局指導課	国際交流員設置事業(教育委員会設置分)	通年	英語圏	地域の国際化推進のため、国際交流員を配置し、通訳・翻訳、国際交流事業の企画立案、民間団体等が主催する国際交流事業への支援などを行った。	招致1名
青森市	教育委員会事務局指導課	友好交流推進事業	R5.3	ハンガリー(ケチケメート)	交流指定校であるセーチェニヴァーロシ小中学校(ケチケメート市)に、本市交流指定校の児童生徒の制作した美術作品(絵画、版画)を送付した。	送付22点
青森市	教育委員会事務局指導課	友好交流推進事業	R5.3	中国(大連市)	交流指定校である第19中学校、新甘井子小学校、松山小学校(大連市)に、本市交流指定校の児童生徒の制作した美術作品(絵画、版画)を送付した。	送付36点
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	青森市民大学中央校1年外国人が見た日本人「台湾編」	R4.9.8	台湾	市民が、外国の文化及び言語(中国語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数24人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	青森市民大学中央校4年外国の文化及び生活の紹介、簡単な日常会話(米国)	R4.11.9	英語圏	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数15人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	青森市民大学・大学院(荒川校)文化・風土・歴史を学ぼう「米国編」	R4.9.13	英語圏	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数12人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	市民スクール(中央)エミリアノ先生の楽しい英会話教室	R5.1.17、2.10、2.24、3.6、3.13、3.20	英語圏	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数140人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール国際交流【ゲーム】「国際交流員ベン先生に教わる『アメリカで人気のゲームをたくさん楽しんじゃおう!』」	R4.7.3	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数13人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール国際交流「おでかけパッチャル ようこそ台湾『行ってみたい!』国際交流員に教わる台湾ってどんな国?」	R4.7.27	台湾	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数9人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール国際交流「おでかけパッチャル ようこそ台湾 第2弾『おいしいものがいっぱい!の国 台湾を国際交流員に学ぼう!』」	R4.8.9	台湾	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数11人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール国際交流【スポーツ】「国際交流員ベン先生に教わる『本場のアメリカフットボール』」	R4.8.27	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数6人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール英語「国際交流員と学ぶ『キッズ英語』」	R4.10.30	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数13人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール国際交流【ものづくり】「国際交流員ベン先生と一緒に『クリスマスブーツとツリーを作ろう!』」	R4.12.4	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数19人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール英語「国際交流員と学ぶ『キッズ英語』」	R5.1.12	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数10人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール国際交流【ゲーム】「国際交流員ベン先生に教わる『英語も学べるトランプゲームアラカルト』」	R5.2.25	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数4人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	市民向け講座(東部)東部キッズスクールベンジャミン先生の「わくわく英会話」	R4.6.11、9.10、11.5	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数22人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	市民向け講座(東部)東部キッズスクールキャスリーン&キラ先生の「わくわく英会話」	R4.7.10、8.28、10.2、12.11	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数37人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	市民向け講座(戸山)台湾人から見た日本人のおもしろいところ～台湾文化紹介～	R4.10.12	台湾	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数15人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	市民向け講座(横内)国際交流員ふるさとの話 ～台湾の名勝めぐり～	R4.9.27	台湾	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数5人
青森市	教育委員会事務局文化学習活動推進課	グローバル人材育成事業	R4.6～R4.12(各月1回 計7回実施)	英語圏、タイ、マレーシア、メキシコ、アイルランド、ルーマニア	参加者が国際理解を深めるプログラムを実施する。各回では講師が外国の食を通して、文化を紹介、体験させることにより、参加者の理解を深める。	児童20名
青森市	教育委員会事務局文化学習活動推進課	棟方志功版画展入賞作品送付	R5.2.4～R5.2.6(作品送付:R5.3)	ハンガリー(ケチケメート)、チェコ(プラハ)、中国(大連)	日本文化に対する理解促進を図るため、青少年の版画文化への理解と技術向上を目的とした版画コンクールの入賞作品を送付した。	送付点数 41点
青森市	教育委員会事務局浪岡教育課	青森市中学生生徒海外派遣・受入事業	R5.2.11～R5.2.12	英語圏	本市の中学生を対象に、外国語指導助手(ALT)と交流する青森市中学生国際交流会を実施した。(新型コロナウイルス感染症の影響及び米国領事事務局の解散により、中学生の海外派遣・受入ともに中止。)	中学生27名、CIR1名、ALT18名
弘前市	学校指導課	英語教育推進事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、外国語教育の充実を図った。	招致18名
弘前市	学校指導課	ひろさきイングリッシュキャンプ	R4.9.23～24	英語圏	ALTが企画・運営する、市内中学生を対象とした「ひろさきイングリッシュキャンプ」を開催し、オンライン英会話や英語を使ったアクティビティやクイズなどにより、英語漬けの生活体験の中で英語への興味関心を高めるとともに、異文化への理解を深めた。	参加中学生28名
弘前市	学校指導課	ひろさきイングリッシュデー	R4.10.15	英語圏	ALTが企画・運営する、市内小学生を対象とした「ひろさきイングリッシュデー」を開催し、英語を使ったゲームに取り組みながらALTと交流をすることにより、英語への興味関心を高めるとともに、異文化への理解を深めた。	参加小学生31名
弘前市	中央公民館	外国人留学生から直接聞ける世界のおはなし	①R4.9.10 ②R5.1.21	各国	弘前大学で学ぶ外国人留学生が、各国の文化などを日本語で紹介し、勉強の成果を発表する場とするともに、市民が交流を通じて、外国の文化を知る機会を創出した。	参加者数 ①15名 ②9名

市町村名	担当部署	事業名	実施時期 (期間)	対象国 (対象地域)	事業概要	実績数値
八戸市	市民連携推進課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	国際交流員として外国人青年を招致し、地域の国際化推進を図る。	招致1名
八戸市	総合教育センター	国際理解教育・英語教育推進事業	通年	英語圏	外国語指導助手による小・中学生等への国際理解教育・英語教育	招致20名
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	ハロウィンツアー	R4.10.30	—	仮装した子どもが「トリックオアトリート」を言ってお菓子をもらうハロウィンの風習を体験してもらう。	参加者数 330名
黒石市	企画課	くろいグローバル探求隊「外国語講座」	R4.5月～R4.7 全5回×2コース	英語圏	国際交流員(CIR)や外国語指導助手(ALT)を講師として、市内小学生に文化紹介や英語をつかったゲームを行い、児童が異文化に親しむ機会を創出した。	小学3～4年生 20名参加
黒石市	企画課	くろいグローバル探求隊「English Salon」	R4.7月～R4.8月	英語圏	児童生徒の夏休み期間中に、国際交流員(CIR)や外国語指導助手(ALT)と自由に交流することができる場として、公民館や市立図書館を会場にサロン活動を実施した。	小学生～高校生 81名参加
黒石市	企画課	くろいグローバル探求隊「バーチャルツアー」	R4.10.25	オーストラリア	市内の中学生に対しWeb会議システムを使い、オーストラリアで働く日本人との交流や、風景文化の中継による紹介を行った。	中学生19名参加
黒石市	観光課	語学指導等を行う外国青年招致事業(CIR)	通年	英語圏	地域の国際化推進のため、国際交流員を配置し、SNSでの情報発信やインバウンド受け入れ態勢の充実を図った。	1名
黒石市	観光課	国際交流員活用派遣事業	通年	英語圏	市内事業者のインバウンド対応に関して指導・サポートを行ったほか、市内保育施設での異文化理解のための交流を実施した。	8件
黒石市	指導課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手(ALT)として外国青年を招致し、市内小・中学校の英語教育の充実を図った。	昨年度から継続4名
黒石市	指導課	黒石市イングリッシュキャンプ	R4.8.8	英語圏	オールイングリッシュによる活動を行うことで、英語力やコミュニケーション能力の育成を図った。	ALT6名(他市から2名) 参加生徒4名(当日欠席3名)
黒石市	指導課	小学校3学年親子レク	R4.11.5	英語圏	レク種目のキンボールに参加し、一緒に楽しみながら英会話にチャレンジした。	ALT4名
黒石市	指導課	やる気「UP」塾	R4.7.2/7.9 R4.12.3/12.17	英語圏	市内在住の中学生を対象に月2回実施している「UP」塾に講師として参加し、主に英語の学力定着・向上を図った。	ALT3名 参加生徒10名程度
黒石市	指導課	出前講座	R5.2.25	英語圏	外国語指導助手(ALT)がこども園園児に、出身地の紹介や絵本の読み聞かせ等を行った。	オンライン交流 ALT4名 園児数名
五所川原市	学校教育課指導係	語学指導等を行う外国青年招致事業	R4	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、市内小・中学校全校に派遣し、英語教育の充実を図った。	派遣4人
五所川原市	学校教育課指導係	教育支援センターALT交流活動	44904	英語圏	教育支援センター通所生と外国語指導助手との交流活動を実施した。	参加者3名
十和田市	指導課指導係	語学指導等を行う外国青年招致事業	R4.4～R5.3	アメリカ、カナダ、イギリス	外国語指導助手として外国青年を招致し、小・中学校における外国語教育の充実を図った。	アメリカ4名、カナダ2名、イギリス2名(R5.3月時点)
十和田市	指導課指導係	国際教育支援事業	R4.4～R5.3	アメリカ	小学校で行われるクラブ活動及び外国語活動・外国語科の授業に講師を派遣し、授業を支援した。	地域に住むアメリカ人2名
十和田市	指導課指導係	国際教育支援事業	R4.12	アメリカ、カナダ、イギリス	イングリッシュ・デイ in Towada(冬)市立小・中学校の児童生徒を対象に、ALTと手紙のやり取りを実施した。	アメリカ4名、カナダ2名、イギリス2名
三沢市	国際交流課	ウェナッチバレーカレッジ英語研修派遣	中止	アメリカ ワシントン州(ウェナッチバレー)	三沢市とウェナッチバレーとの姉妹都市交流を基盤とし、国際感覚の醸成と語学に対する向上心の涵養を図り、次代を担うグローバル人材の育成及び将来にわたる姉妹都市関係のさらなる発展を図るため、ウェナッチバレーカレッジでの英語研修プログラムに三沢市の高校生を派遣。	—
三沢市	国際交流課	あおもりグローバルアカデミー	R4.10.29～10.30 R4.11.19～11.20 R4.12.10～12.11	青森県	国内外のグローバル化の流れが急速に進展する中、それに対応し、世界的な視野を持ってチャレンジしていく若い人財の育成を目的として青森県と共同開催。	受講者20名中、 18名修了
三沢市	市民スポーツ課	国際交流ニュースポーツフェスティバル	R5.3.11	三沢市及び三沢基地	国際都市を標榜する当市の特色を生かし、子供たちの冬期間の交流の場として、三沢国際交流スポーツセンターを会場にスポーツを通じてお互いの友好を深めることを目的として開催。	120名
三沢市	学校教育課	三沢市中学生イングリッシュ・キャンプ	R4.7.28～7.29	英語学習に興味・関心のある市内中学生	国際社会で活躍できる人材育成事業として、三沢市の地域特性を活かし、英語教育の充実とコミュニケーション能力の向上を目的に実施。	参加者30名
三沢市	学校教育課	三沢市小学生ジュニア・イングリッシュ・デイ	R4.7.22	三沢市	三沢市在住の外国人小学生や外国語指導助手との交流活動を通し、参加者が英語を使って楽しくコミュニケーションを図ることを目的に実施。	参加者40名
三沢市	学校教育課	外国青年招致事業	R4.4.1～R5.3.31 年間482回	アメリカ、カナダ	外国語指導助手(ALT)として外国青年を招致し、市内小学校及び中学校における英語教育の充実を図ることを目的に実施。	招致4名
三沢市	学校教育課	国際理解教育事業	R4.4.1～R5.3.31 年間24回	メキシコ、プエルトリコ	三沢市内全小学校における国際理解教育へ外国人講師を派遣し、異文化理解を通して、自国文化の理解と愛国心の育成を図ることを目的に実施。	2名 小学校各校へ派遣
三沢市	学校教育課	英語教育推進事業	R4.4.1～R5.3.31 年間275回	アメリカ	三沢市内全小学校1～6学年全クラスへ英語指導助手(AET)を派遣し、英語教育の充実を図ることを目的に実施。	5名
三沢市	学校教育課	日米交流推進事業	R4.4.1～R5.3.31	基地内小学校	三沢市内全小学校を対象として、日米の国際理解教育による異文化理解と英語による交流の充実を図ることを目的に実施。	—

市町村名	担当部署	事業名	実施時期 (期間)	対象国 (対象地域)	事業概要	実績数値
むつ市	経済部 観光・シティプロモーション推進課	Aomori Global Advance Project 2022 (AGAP2022)	令和4年3月 ～令和5年1月	シンガポール	<p>【事業目的】 ・青森県内をはじめとする大学生と、シンガポール国立大学の学生及びシンガポール在住のビジネスマンとが互いの文化を学びあう機会を作り、輸出の促進やインバウンドの促進等のミッションに取り組むことで、むつ下北地域の産業の高度化と国際的なビジネスマインドを備えた担い手の育成を図る。</p> <p>【事業概要】 ・参加学生は「輸出の促進」、「インバウンドの促進」、「ブランディング」をテーマに、テストマーケティングやインフルエンサーを招聘してのファムツアアの企画運営、Instagram等を活用したプロモーションを実施。 ・市長をはじめ、関係者とともに9月にシンガポールへ渡航し、特産品のテスト販売や、各種プロモーション等を実施。あわせて、シンガポール国立大学等の視察も実施。</p> <p>【合意書締結】 ・むつ市とシンガポール国立大学語学教育研究センターは、来年度の事業実施に向け、シンガポール国立大学の短期留学生の受け入れやむつ市での教育プログラムについて包括的な連携について合意し、令和4年10月24日に合意書を締結した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内大学生9名が事業参加</li> <li>・ファムツアー参加者3名</li> <li>・インフルエンサーによる動画の視聴数1.6万回(令和5年8月17日現在)</li> <li>・期間中の物販金額\$3,992.20</li> </ul>
むつ市	教育委員会学校教育課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手(ALT)として外国青年を招致し、英語教育の充実及び国際交流事務の円滑化を図っている。	招致2名
むつ市	教育委員会学校教育課	中華民国陽明國民中学とのオンライン友好交流	12月	台湾	むつ市立関根中学校と陽明國民中学とのオンライン交流を実施し、お互いの学校生活、日常生活、文化について交流を行った。	関根中生徒25名 陽明中生徒15名
平川市	教育委員会指導課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致2名
平川市	教育委員会指導課	イングリッシュキャンプ	R4.8.16(豪雨災害により中止)	英語圏	外国語指導助手(ALT)等と交流しながら、英語による様々な活動を行うことにより、英語に対する興味関心を高め、英語によるコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際感覚を養う。	ALT4名(平川市1名、黒石市3名) 外国語教育支援員1名の計5名がスタッフとして、小学生4名、中学生3名の計7名が参加予定でした。
平内町	学校教育課 学務係	語学指導等を行う外国青年招致事業	R4	米国	外国語指導助手として外国青年を招致し、管内児童生徒等の将来を見据えた英語教育の充実を図った。	招致2名
今別町	教育課	語学指導等を行う外国青年招致事業	R4.4.1～R5.7.31	アメリカ	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致1名
外ヶ浜町	学務課	語学指導等を行う外国青年招致事業	R4	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致2名
板柳町	教育委員会学務課	語学指導等を行う外国青年招致事業	R4.4～R5.3	英語圏	国際化に対応した行政施策の推進及び語学教育の充実を図るため、外国語指導助手(ALT)を招致。	ALT1名
鶴田町	企画観光課	アースデイ2022	R4.4.15	—	国際交流員と小・中学生が、アースデイの歴史を学んだり、ゴミとして捨てられるものを再利用した工作をしたりしながら、環境保護の意識を高める。	参加者20名程度
鶴田町	企画観光課	イングリッシュ・デイ	R4.6.18	—	小学生が国際交流員や外国語指導助手と一緒に、英語を使うゲームやアクティビティに挑戦して英語に慣れ親しむ。	参加者30名程度
鶴田町	教育委員会	町民英会話教室	通年	—	国際交流員及び外国語指導助手が大人を対象に公民館で英会話教室を開催する。	参加者10名程度
六戸町	教育委員会	語学指導等を行う外国青年招致等事業	R4	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致延べ4名
横浜町	横浜町教育委員会教育課	横浜町英語指導助手招致事業	R4.5.1～R5.1.31	日本、英語圏	外国語指導助手を招致し、児童・生徒の外国語学習活動の向上を図った。	招致3名
東北町	商工観光課 交流振興係	日米交流ひな祭り	R5.3.4	アメリカ	東北町内小学生と、三沢基地内の小学生の交流	東北町参加:16名 三沢基地参加:34名
おいらせ町	学務課	語学指導等を行う外国青年招致事業	R4.4～R5.3	英語圏	外国語指導助手として外国人青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致3名
三戸町	教育委員会事務局	語学指導等を行う外国青年招致等事業	R4.4～R5.3	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致又は直接採用し、町内小中学校での英語教育の充実を図った。	招致1名、採用1名
五戸町	教育課	語学指導等を行う外国人青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	3名
田子町	教育委員会	語学指導外国青年招致事業	通年	アメリカ	外国語指導助手として外国青年(ALT)を招致し、児童生徒の英語教育の充実を図った。	招致2名
田子町	政策推進課	清水頭小学校イースター交流会	R4.4.14	アメリカ (ギルロイ市)	清水頭小学校全校児童10名とギルロイ市の高校生3名をオンラインでつなぎ、アメリカの「イースター」の文化を体験した。	小学生ほか 計13名参加
田子町	政策推進課	上郷小学校ハロウィン交流会	R4.10.26	アメリカ (ギルロイ市)	上郷小学校全校児童9名とギルロイ市の一般家庭(5名)をオンラインでつなぎ、アメリカの「ハロウィン」の様子を体験した。	小学生ほか 計14名参加
田子町	教育委員会	田子中学校オンライン交流授業	R4.10.5 R4.12.6	アメリカ (ギルロイ市)	田子中学校生徒がギルロイ市の学生5名とオンラインによる交流を行った。(1回目:3学年生徒27名、2回目:2学年生徒32名)	中学生ほか 計64名参加
田子町	政策推進課	小学生オンラインクリスマス交流会	R4.12.24	アメリカ (ギルロイ市)	町内小学生8名とギルロイ市の一般家庭(3名)をオンラインでつなぎ、アメリカのクリスマスの様子体験した。	小学生ほか 11名参加
田子町	政策推進課	中高生オンラインミーティング	R5.1.7	アメリカ (ギルロイ市)	田子中学生3名とギルロイ市の高校生10名が、オンラインで新年の伝統行事を紹介し合い交流した。	中学生ほか 13名参加
階上町	教育課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致2名

資料：誘客交流課

## 2 科学技術に精通した人財等の育成

### (1) 理数教育の推進（スーパーサイエンスハイスクール）

#### ア スーパーサイエンスハイスクールについて

文部科学省では、科学技術、理科・数学教育に関する教育課程等の研究開発を行う高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定し、先進的な理数教育を通して、生徒の科学的能力及び技能並びに科学的思考力、判断力及び表現力を培い、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図ることとしている。

この事業は平成14年度からスタートし、本県においては県立八戸北高等学校が平成17～21年度及び平成22～26年度の2期、県立三本木高等学校が平成22～26年度の1期、県立弘前南高等学校が平成28年度～令和2年度の1期指定を受け、本県の理数教育を牽引してきた。現在は、県立青森高等学校が平成29年度～令和3年度及び令和5～9年度の指定を受け、2期目の研究開発を実施している。本事業における指定校は全国で約200校である。

#### イ 指定校の取組

##### 県立青森高等学校

「学際的研究により新たな価値を創出できる国際的な科学技術系人材の育成」をテーマとし、課題研究を中核として、専門家の支援・協力のもと、科学的能力・科学的思考力を伸長する教育プログラムを開発するとともに人文・社会科学的視点からの考察を加え、企業・行政・NPOなど様々なステークホルダーとの対話・協働を進め、課題研究の成果を上げる取組を通して、多面的な考察力と新たな価値を創出する力を育成することを目的として実施している。

#### ウ 県教育委員会の取組

指定校に対し、専門的見地から指導、助言に当たる運営指導委員会を設け、年2回実施している。SSH指定校は県内における理数教育を牽引する存在として位置付けており、先進的な実践例は各種事業、研修会等において紹介し、普及・啓発を図っている。

## 3 地域で活躍する人財の育成

### (1) 若者の地域定着の推進

#### ア 若者に対する奨学金の返還支援

県では、若者の県内定着・還流の促進及び産業人財の確保を図るため、35歳未満の若者が6年間青森県内に住み、対象企業（サポート企業）で働いたとき、県とサポート企業とで奨学金の返還を支援する「あおもり若者定着奨学金返還支援制度」を令和4年度から運用している。

##### <対象者>

- ・日本学生支援機構又は青森県育英奨会の奨学金利用者
- ・大学・短大等を卒業した35歳未満の者（※県内居住・就職時点）
- ・現在青森県内で正規雇用されていない者

##### <要件>

- ①企業、若者ともに内定前までに制度に登録していること
- ②県内に居住し、かつサポート企業に就職すること
- ③上記②の要件を満たしてから3年及び6年経過すること

##### <支援内容>

以下の金額をサポート企業と県が2分の1ずつ負担し、貸与機関に繰上返還する。

学校区分	支援額（企業が設定）
大学等	150万円、100万円、60万円のいずれか
短大等	75万円、50万円、30万円のいずれか

※支援額は返還総額（残額）の2分の1を上限とする。

※要件を満たして3年経過時と6年経過時にそれぞれ支援額の2分の1を支援

## イ 若者による地域づくりの推進

### 地域おこし協力隊

県内では、地域資源の発掘や地場産品のプロモーション、農林水産業の振興など、地域産業や地域活性化支援の担い手として、多くの地域おこし協力隊が活動している。

県では、市町村による地域おこし協力隊の受入態勢の強化や、協力隊員として活動していくための心構えや注意点、キャリア形成に関する知見を身につけるための研修会を開催するなど、地域おこし協力隊の受入・定着促進に向けた取組を実施している。

## 4 国際的に活躍できる次世代競技者の育成

### (1) 本県の競技力の現状

本県の競技力向上の目安となる国民体育大会における男女総合成績の順位は、近年、低下傾向にあり、過去5年をみると、平成29年は30位台であるが、概ね40位台が続いている。

第2-4-7表 国民体育大会における本県の種別獲得得点の推移（72回大会～／競技得点のみ）

回数	年 (平成・令和 /西暦)	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	合計 天皇杯順位
72回大会	H29	194.5	32.0	167.5	33.5	427.5
	2107	226.5		201.0		35位
73回大会	H30	87.0	44.0	132.5	39.0	302.5
	2018	131.0		171.5		42位
74回大会	R1	73.5	48.0	89.5	83.0	294.0
	2019	121.5		172.5		45位
77回大会	R4	87.0	78.5	125.5	36.0	327.0
	2022	165.5		161.5		42位
特別国体	R5	115.0	67.0	90.5	79.0	351.5
	2023	182.0		169.5		40位

※75回大会(R2)については、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりR5に延期 資料：スポーツ健康課

※76回大会(R3)については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

この原因としては、国民体育大会での獲得得点のうち6～7割を占めていた少年男女の成績が低下していることなどが考えられ、2026年に本県で開催予定の第80回国民スポーツ大会をはじめとした全国大会はもとより、国際的に活躍できる次世代競技者の育成が急務である。

また、世界で活躍できるトップアスリートになるためには、専門的な技能はもとより、世界のスポーツ情勢や最新のスポーツ医・科学情報、メンタルマネジメントや栄養学等、様々な知識や能力が必要とされるため、ジュニア期から、こうした分野に触れる機会を増やすことも重要である。

### (2) 次世代競技者の発掘・育成・強化

本県では、第80回国民スポーツ大会の本県開催を見据え、平成29年度に青森県競技力向上対策本部を設置し、平成30年1月に策定した「青森県競技力向上基本計画」に基づき、将来有望なジュニア選手を輩出するため、高い能力を有する小学生を県内から選抜し、日本スポーツ振興センター、日本スポーツ協会、青森県スポーツ科学センター、県内競技団体等と連携した各種育成プログラムを実施する「あおもりスポーツアカデミー事業」を実施している。

ア 事業の趣旨・目的

国民体育大会をはじめとする全国大会や世界大会での活躍が期待できる、将来有望なジュニア選手を輩出するため、高い能力を有する小学生を県内全域から発掘するとともに、関係競技団体等と連携し、スポーツ医・科学を活用した本県独自の各種育成プログラムを実施する。

イ 実施内容

① 発掘プログラム

青森県内に住む小学校4年生、6年生を対象に選考会を実施し、運動能力が高く優れた素質を有する選手、または体格等に優れた選手を発掘する。

(ア) 一次選考会

小学校で行われる新体力テスト総合A判定の児童の中から、県内3会場で運動能力測定を実施し、その結果により各学年30名程度を選考する。

第2-4-8表 令和4年度発掘プログラム一次選考会実施状況

開催日	開催地	会場	測定内容	参加者数	
				4年生	6年生
10月22日(土)、23日(日)	八戸市	八戸市体育館	①身長・体重 ②立ち幅跳び ③立ち三段跳び ④20m走 ⑤メディシンボール前投げ ⑥反復横跳び ⑦長座体前屈 ⑧10mシャトルラン	82名 (41名)	93名 (32名)
11月5日(土)、6日(日)	青森市	マエダアリーナ			
11月12日(土)、13日(日)	弘前市	青森県武道館			

※カッコ内は一次選考通過者数

資料：スポーツ健康課

(イ) 二次選考会

一次選考通過者に対し、保護者も含めた面談を実施し、本人の意思(保護者の意向)・健康状況等の確認を行う。

第2-4-9表 令和4年度発掘プログラム二次選考会実施状況

開催日	開催地	会場	参加者数	
			4年生	6年生
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、個別面談を中止とし、書面にて実施			41名 (37名)	32名 (29名)

※カッコ内は二次選考後、確定した令和5年度あおもりスポーツアカデミー生(小5、中1)数

資料：スポーツ健康課

② 育成プログラム(5回)

発掘プログラムによって選考した選手を対象に、スポーツ医・科学を活用した講義・トレーニングや、多競技種目の体験など、発達段階に応じた独自の育成プログラムを実施する。

第2-4-10表 令和4年度育成プログラム実施状況

開催日	会場	実施内容
第1回 4月29日(土)	マエダアリーナ	知的能力開発プログラム 講演「トップアスリートに必要な言語教育～自ら考える力・表現する力を身に付けよう～」 講師：株式会社インターファースト 代表取締役 高柳 公一 氏 栄養・食生活サポートプログラム 講師：(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ栄養士 米谷 瑞紀 氏 身体能力開発プログラム 実技「スポーツリズムトレーニング」 講師：一般社団法人スポーツリズムトレーニング協会 STAR公認インストラクター 塩越 昭弘 氏
第2回 7月9日(土)	マエダアリーナ	医・科学サポートプログラム 講義・実技「ケガに負けない身体の作り方」 講師：(公財)青森県スポーツ協会 スポーツ科学センター スポーツ科学専門員 藤田 恭介 氏 日本一部活動見学 講演・競技体験「青森山田中学校女子バドミントン部に学ぶ一流選手としての心構え」 講師：青森山田中学校バドミントン部 監督 成田 奈緒 氏
第3回 10月1日(土)	マエダアリーナ	競技体験プログラム【トランポリン】 講師：青森県トランポリン協会 理事長 塩谷 喜兵衛 氏 医・科学サポートプログラム 講演：「スポーツと歯科医学～スポーツ歯科を学んでパフォーマンス向上～」 講師：日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト 工藤歯科医院 院長 工藤 眞裕 氏 身体能力開発プログラム 講義・実技「YPDモデル(青少年身体発達)に基づくトレーニング実践」 講師：(公財)青森県スポーツ協会 スポーツ科学センター スポーツ科学専門員 後藤 大 氏
第4回 12月10日(土)	カクヒログループスタジアム	トップアスリートプログラム 講師：モディ株式会社 カヌースプリント競技 U23 日本代表 佐藤 友香 氏 医・科学サポートプログラム 講演：「アスリート×睡眠～睡眠を知れば競技力は上がる～」 講師：東洋羽毛北部販売株式会社 青森営業所 所長 岡野 美和 氏 身体能力開発プログラム 実技「スポーツリズムトレーニング～発展編～」 講師：一般社団法人スポーツリズムトレーニング協会 STAR公認インストラクター 塩越 昭弘 氏
第5回 2月23日(木)	マエダアリーナ	医・科学サポートプログラム 講演：「自分でできる！セルフコンディショニング」 講師：(公財)青森県スポーツ協会 スポーツ科学センター スポーツ科学専門員 廣本 瞭 氏 栄養・食生活サポートプログラム 講演：「食生活を見直そう！」 講師：(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ栄養士 米谷 瑞紀 氏 競技体験プログラム 実技：「ハンドボール」 講師：青森県ハンドボール協会 荒尾 祐治 氏

資料：スポーツ健康課

ウ 選択プログラム

小学校6年生・中学校3年生を対象に、中学校・高等学校進学以降にトップアスリートを目指す可能性のある最適な競技種目を選択できるよう、対象児童生徒・保護者と面談しアドバイスをを行う。

第2-6-11表 令和4年度選択プログラム実施状況

開催日	開催地	会場	参加者数	
			小6	中3
10月22日(土)	八戸市	八戸市体育館	/	2名
11月5日(土)	青森市	マエダアリーナ		2名
11月12日(土)	弘前市	青森県武道館		2名
11月24日(木)	鶴田町	鶴田町公民館		1名
2月23日(木)	青森市	マエダアリーナ	15名	/

資料：スポーツ健康課